

大学の取り組み

平成19年度フレンドシップ事業

フレンドシップ事業担当者・准教授 梶原 篤

■ 本学におけるフレンドシップ事業の概要

平成19年度もフレンドシップ事業を実施しました。

フレンドシップ事業とは、教員の養成段階において、本学学生が種々の体験活動を通して子どもたちと触れ合い、子どもたちの気持ちや行動を理解し、実践的指導力の基礎を身につけることを目的とした事業です。

平成19年度は、①夢化学21世紀ー子どもとともに学ぶ理科教室ー、②味覚をいかしたクッキング、③川上村で大歓声を!!、④書道を楽しもう、⑤古代探検ー「集まれ★古代っ子!」、⑥救うロボコンと飛ぶ教室ー奈良から始めるコンテストーの6事業を実施しました。これらは2年次の「総合演習」などとして単位化され、本学の教育プログラムの一環を構成しています。どの事業も、近隣の小中学校から広く参加者を募り実施しています。各事業の詳しい内容は、毎年作成しているフレンドシップ事業報告書に載っておりますので、興味を持たれた方は、ぜひ目を通していただきますようお願いいたします。

■ シンポジウム

毎年、すべての事業が終わり一段落した段階で、その年度のフレンドシップ事業全体を総括するシンポジウムを開催しています。本年度も平成20年1月17日木曜日、午後1時30分から四時間にわたり、本学の教育実践総合センター

多目的ホールを会場として開催しました。重松副学長(教育担当)の挨拶に始まり、第一部は各事業を担当した学生による事業の実施報告で、各事業10分程度の時間の中で、実施当日の写真などを映しながら、代表の学生が簡潔に報告しました。

20分程度の休憩・ティータイムを挟んで、第二部は学生によるパネルディスカッションを行いました。主題は「フレンドシップ事業で学んだことと今後の発展のためにー学生からの希望と要望についての討論ー」とし、学生の自由な発言を求めました。

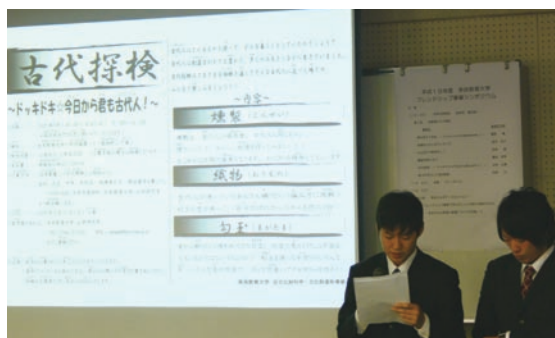
本来、フレンドシップ事業は学生のための事業で、学生自身がもう少し主体的に参加するようになった方が良くとずっと考えてきました。毎年のようにシンポジウムを開催して10年以上になりますが、年々学生自身が主体的に関わるようになってきております。第一部と第二部とに分けて開催するなど、形式はずっと踏襲されていますが、五、六年前のシンポジウムでは、第一部で報告するのは事業を実施した大学の教官で、第二部は他大学のフレンドシップ事業の内容に関する講演会を開き、学生はほとんど参加しないという状況でした。第一部の報告を学生自身で行うように変えていき、後半の第二部もできるだけ学生自身で発言をする機会を増やすように徐々に徐々に変えていった結果、やっ

と現在の形式にたどり着きました。学生からの発言・提言は年々活発になってきていて、「予算をもう少し使いやすくしてほしい」、現金を使えるようにしてほしい」とか、「同

じ半期15コマの授業なのに、楽な事業と大変しんどい事業があるのをなんと改善してほしい」といった意見が聞かれ今後の課題として取り組んでいくべきと考えています。

シンポジウムには本学関係者だけでなく、本事業の企画運営に協議会委員としてご協力いただいている学外の先生方にもご出席いただき、毎年貴重なご意見をいただいています。本年度のシンポジウムの際には、奈良市教育委員会の奥村浩一先生や、奈良市立富雄中学校長の福井敏雄先生から、学生たちに対して大変温かい激励の言葉をいただきました。さらに現職の教員で、現在本学大学院生でもある山野可奈子先生(本学大学院1回生 教育実践開発専攻 教育臨床・特別支援教育専修 特別支援教育分野/勤務先・生駒市立俵口小学校)には、特別にご出席を要請し、学生たちにご意見をいただきました。このような先生方のご発言は学生の心に深く残るようで、毎年ありがたく思っております。

フレンドシップ事業が、教員養成課程で学ぶ学生にとって役に立つ、実際の小学生や中学生、あるいは高校生を対象とした教育実践活動になるよう、今後とも内容を充実させ、発展を図っていききたいと考えています。



シンポジウムでの実施報告